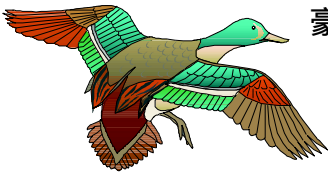


私たちの電気が アボリジニの大地を壊す Jabiluka

映画 ジャビルカ 日本語版



自然の宝庫を舞台に暴かれる
ウラン鉱山開発の秘話
鬼オブラッドベリの最新作
待望の日本語版完成

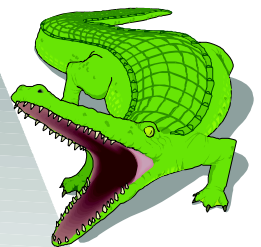


世界遺産に指定される広大な
豪州カカドゥ国立公園のジャビルカの大地。
そこに四万年を超えて生き続ける
アボリジニたちの声をかき消すように
ウラン鉱山建設が始まった。

それは日本の電力会社の
資本参加により開始されたものだった。

命の大地を守るため世界中から集まった
人々は次々と逮捕され、
ブルドーザが大地を切り裂いていく。

それはまさに今 行われていることなのだ。



取扱い団体

ノーニュークス・アジア
フォーラム・ジャパン
大阪市生野区勝山北1-7-28
Tel&Fax 06-712-9955
e-mail nnaaf@jca.ax.apc.org
Web page
<http://www.jca.ax.apc.org/nnaaf/>

映画ジャビルカ日本語版
VHS 53分
通常価格 4,000円
上映権付・図書館価格
12,000円
(いずれも郵送料別途)

ジャビルカとは

オーストラリア北部のカカドゥ国立公園は世界有数の自然の宝庫で、先住民アボリジニが四万年前から住み続けたふるさとでもあります。

このため自然は「世界自然遺産」に、壁画などは「世界文化遺産」に登録されています。両方に登録されている個所は世界でも十九箇所しかありません。

しかし、その公園内のジャビルカという土地にウラン鉱山の計画が進んでいます。

この鉱山による影響では廃水による汚染がもっとも懸念されます。ジャビルカ鉱山の下流域には「ラムサール条約」に登録されている大湿原があり、この自然の宝庫が汚染される可能性があるからです。

アボリジニの人々が当初から強く反対しているのに加え、環境団体も含めオーストラリア内最大の環境問題となっています。

さらに世界遺産委員会は特別査察団をカカドゥに派遣し、今年11月に京都で開かれる「世界遺産会議」でその結果が報告されることになっており、注目されています。

監督紹介

映画監督デビッド・ブラッドベリは、政治的抑圧や環境破壊などの問題の核心を描き出すことで、国際的な評価を得ている。

1979年の「フロントライン（前線）」で、ベトナム戦争に従軍したオーストラリア人カメラマンを取り上げ、アカデミー賞に初ノミネート、1981年「パブリック・エナミー・ナンバーワン」でサンフランシスコ映画祭金の門賞を受賞。1985年の「チリ・Hasta Cuando?」では、アカデミー賞に二度目のノミネートを受けるなど数々の賞に輝く。

そして、1998年の最新作が「ジャビルカ」である。



私たちの電気が アボリジニの大地を壊す Jabiluka

映画 ジャビルカ 日本語版

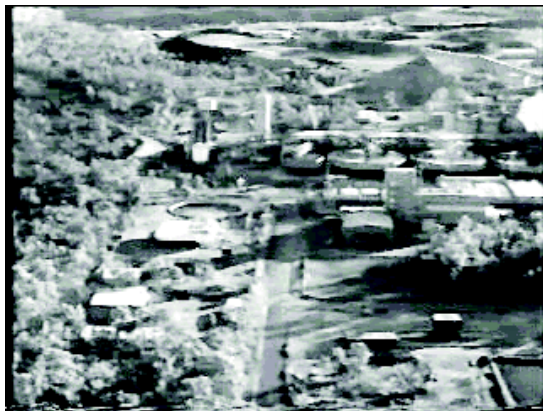
このビデオケースには塩化ビニールは使用していません

日本の関わり

ジャビルカ鉱山以前に操業されているレンジャー鉱山からは関西電力・四国電力・九州電力がウランを輸入しており、ジャビルカ鉱山の開発にも資本参加している。

ジャビルカ鉱山が営業を始めれば、そのウランは日本で使われることになる。

いわば、日本はジャビルカでの放射能汚染の当事者といえる。



日本版企画団体

ノーニュークス・アジア・フォーラム・ジャパン
原子力資料情報室
反核パシフィックセンター東京
日本消費者連盟
原水爆禁止日本国民会議
ピースポート
ストップ・ジャビルカ・キャンペーン
アジア太平洋資料センター（PARC）

注文方法

下記の郵便口座に通常版は郵送料込み4,390円、
上映権付・図書館向けは郵送料込み12,390円、
を振り込んでください。

郵便振替 00130-4-711690

口座名 ノーニュークス・アジア・フォーラム

通信欄に「ジャビルカビデオ 通常版」または
「ジャビルカビデオ 上映権付」と書いてください。

10月中に発送開始予定です。